学校だより　9月号

相模原市立二本松小学校
2025. 8. 25

にほんまつ

「かしこさ」
「やさしさ」
「たくましさ」

松っ子ブログ

「自分で決めること」の大切さ

校長　松浦　隆志

7月26日（土）から8月1日（金）の期間、全国連合小学校長会の海外視察でニュージーランドへ行ってきました。3校の現地校を視察して、一番印象に残っているのが楽しそうに学んでいる子どもたちの姿です。 子どもたちに直接話を聞いてみましたが、「学校は楽しいよ。」「私は、算数とスポーツがとくに好き！」と、どの子も笑顔で答えてくれました。

ニュージーランドでは、学校の裁量が大きく、どの学校も特色ある学校経営をしていました。それにもかかわらず、どの学校でも子どもたちが楽しそうに学んでいるのはなぜなのかとても不思議に感じました。

その鍵となるのは、「自分で決める」ということです。授業では、作品を作るのに布で作るのかアイロンビーズで作るのか、一人で学ぶのかグループで学ぶのか、床に座って取り組むのか、高い机で取り組むのか等々、「自分で決める」機会にあふれていました。

一つのことを短い時間で習得するだけなら、教員の指示にしたがって、学ぶほうが効率的かもしれません。けれども、それではどうしても受け身の学びになってしまいます。こうした「自分で決める」経験の積み重ねが、「楽しく学ぶ」ことにつながっていると強く感じました。

また、子どもたち自身による自律的な活動に重きが置かれていました。４つの縦割りグループ（赤・青・黄・緑）の色別のグループごとに自主的に集会が行われたり、行事で競い合ったりするとのことでした。（ハリーポッターのような印象でした）

ちょうど学校をた時間にも赤グループの集会が講堂で開かれていて、最高学年の子がみんなを前に、ステージを歩きながら堂々と演説をしていました。

もちろんこのときにも、先生の力をまったく借りることなく自分たちの力で集会を行っていて、とても感心しました。

二本松小学校では、「考動（こうどう）」（自分で意思決定し行動する）、「協働（きょうどう）」（仲間に働きかけ行動する）を重点にして学校経営を行っています。今回の視察を通して、子どもたちが楽しく学校生活を過ごすために、そして充実した学びを進めていくために、この２つの柱の重要性をより強く感じました。子どもたちが自己決定する機会を大切にしていくような働きかけを、学校の職員一同、心がけてまいりたいと思います。

２学期もどうぞよろしくお願いいたします。